

皆さんは、大学図書館をどのように活用して学習や研究をしていますか?今回座談会を企画して3名の三重大大学の学生さんにお集まりいただき、図書館についてお話いただきました。先輩方の話から、ぜひ図書館を使いこなす技(ヒント、きっかけ)を見つけてください!

**木場 優太 さん**

人文学部法律経済学科 4年

**福田 涼 さん**

工学研究科電気電子工学専攻 M2

**内山 めくみ さん**

人文学部文化学科 3年

**柴田 佳寿江 (進行)**

附属図書館利用者サービス担当



## 注目 図書購入リクエストって?

必要な本が図書館にない時はぜひ『図書購入リクエスト』をしてみてください!図書館の資料として適切と判断した場合は、購入します。

リクエストをお待ちしています!

リクエストは、Myポータルから!



### ● ジャック・チャロナー編集

『人類の歴史を変えた発明1001』

小巻靖子[ほか]訳、ゆまに書房、2011

### ● 伊藤真 著

『憲法、第3版』 弘文堂、2007

### ● 安達千李[ほか]編

『ゆとり京大生の大学論:教員のホンネ、学生のギモン』 ナカニシヤ出版、2013

ありがとうでした!



**柴田** 本日は、お集まりいただきありがとうございます。今回は、ぜひ皆さんが図書館を普段どのようにお使いになっているのかを三重大の学生さんに向けてお話しただきたく思っています。どうぞよろしくお願いいたします!

**全員** よろしくお願ひします!

■ **図書館の第一印象:広さと資料の多さを感じた**

**柴田** 入学当時、皆さんは三重大大学の図書館に対してどのような印象を持たれましたか?

**内山** 図書館ツアーに参加した際に、高校の図書室と比べると、広かったのと、探すのが大変そうだなと思ったのと同時に期待感がありました。

**木場** 僕は、広さもそうなのですが、資料の多さを感じました。たとえば、市立図書館と比較して、専門的な法律の本がより多くあるように感じ、勉強するには良い環境だと思いました。

**柴田** 資料の多さを感じてくださったんですね。でも、三重大所蔵資料で学習を進めて行く中で、不足を感じたことはありませんか?

**木場** 資料に対して、そこまで不足を感じたことはないですね。欲しい本はリクエストもしています。他の学生も利用するだろうと思う本はリクエストすると購入してくれるのですが、この制度のおかげで大きく困ったことはありません。

**柴田** 図書館を利用して行く中で第一印象が変わったと思うのですが、一番記憶に残っている図書館利用のシーンは何ですか?

**木場** 教養ワークシヨップの授業で書評を書く際に、図書館で展示されている本を参考に、書評の対象とする本を選んだことが記憶に残っています。

**福田** 私の学科では、先生から、教科書に記載された問題を解くという課題が多くありましたが、授業では全ての内容を理解できないので、全ての問題を解くことができないときが多いんです。そんなときに、図書館には類似問題が載っている図書がたくさんあるので、片っ端から解いてみるという事をしていました。そうすることで、基礎が身につくので、課題もようやく解くことができるようになるという感じですね。専門書は本ごとに説明の仕方が違うところがあるので、自分が理解しやすい説明をしてもらっている本を探す

ということも頻繁にありましたね。

■ **資料:印象に残った図書との出会い**

**柴田** 何か印象に残った図書との出会いは、ありましたか?

**福田** 「人類の歴史を変えた発明1001」です。研究者の研究成果はすべて何かに繋がっているんです。例えば僕の研究だとマイクローメーターなどのとても小さい材料の表面構造を測定するのですが、その装置も実はノーベル賞レベルの発明だったりします。その発明があったからこそ、今研究できています。そして、自分の研究が今度は新しい発明を生んでいくんです。その本の新しいページに繋がっているんだなって実感できた1冊だったのですごく印象に残っています。電子の凹凸を理解する、そういう装置を使わせてもらっているが、こういった行動も世界の発明の1つ。こういったことを土台にして今の研究があるということを知ることができた1冊です。

**木場** 難しい授業を理解するための予習や復習で図書館の本を使っています。『憲法、第3版』はそのうちの1つで、このシリーズのおかげで授業を理解することができ、自信を持って試験を乗り越えることもできました。

**内山** 「ゆとり京大生の大学論」という本が印象深かったです。京大で教養教育の改革が行われた時に、先生へのインタビューや、学生同士の座談会について学生がまとめた本です。大学で、どのように目的意識を持つとどのように学んでいくべきか考えさせられました。

**柴田** どのような図書との出会いが印象に残りますか?

**福田** 学生の間で面白かった本をお薦めする制度はどうでしょうか。たとえば、先輩方が読んで面白かった本を紹介する企画などです。小学校のころはそういう企画を楽しみにしていました。三重大では行われていません。そういうのが段々無くなっていったのが寂しいですね。

**内山** 私も、学生が学生に本を紹介する機会があればと思います。配布物や展示だけでなく、話をする機会もあればいいですね。私は自分以外の学生がどのような本を読んでいるのかがとても気になります。でも、何かしらのきっかけが無ければなかなか知る機会はありません。図書館に行けば誰かの本へのコメントなどが読めるのであれば面白そうです。

■ **最後に:三重大生へのメッセージ**

**柴田** 今日はいろいろと話をしていたけど、ありがとうございました。最後に、読者である後輩さんへのメッセージをお願いします。

**内山** 「書庫ガイダンス」を受講していない学生が多いと感じます。公共図書館では書庫に入れないことが大半ですが、三重大図書館ではガイダンスを受講すれば入れるようになるので、是非お薦めしたいです。

**木場** そもそも本を読む人が少なくなってきた感じがします。図書館は、ほぼ学習するところといったイメージを持たれているかもしれませんが、しかし、図書館には幅広いジャンルの本が多数用意されており、専門分野以外でも、興味を惹かれる本がたくさんあります。そのような本との出会いの場が図書館であってほしいと思います。

**福田** 図書館を、堅苦しい場所とは思わないで欲しいです。図書館で勉強する場所でもなく、本を読む場所でもなく、もっと二人になれる時間くらいにとらえてもらっても良いのでは?サークル、授業とかを通して人と話すことばかりなので、たまには一人になる場所として図書館は最適ですよ。

■ **最後に:三重大生へのメッセージ**

**柴田** 三重大の図書館は、「環境情報コーナー」など別置のコーナーがあります。こんなコーナーがあったらもっと図書と出会えたのに!という提案はありますか?

**福田** 「就職関連」。資格試験関係もまとめて、「先輩方はこんな資格をとっています」とか「就職活動で役立つこと」みたいな情報も得られるコーナーはどうでしょうか。

**木場** 就職活動のための本として、業界研究とか自己分析をするための図書はよく本屋とかで売っています。でもそういった図書だけではなく、企業や学生の現状が書かれている図書も必要だと思います。就職活動ってこういった変遷があった今の形になったとか、我々就職生活は企業からこう見られているといったことを理解しないと、就職活動を乗り切れないかと思うんです。企業ばかり見るのではなく、就職活動そのものを理解することも大切かなと。こういった図書を、図書館は活かしていくべきだと思います。

## 注目 書庫ガイダンスって?

書庫には研究用図書や貴重図書が保管されています。書庫ガイダンスを受ければ、学部学生のみならずも書庫に入って資料を調べていただくことができますよ。書庫ガイダンスは20~30分程度で随時受付ています。参考調査カウンターで参加の申し込みを受付中です。

